

日本放射線腫瘍学会 日本がん看護学会 共催
がん放射線治療 看護セミナー
第4回テーマ：がんの骨転移への放射線治療

期日：平成19年2月24日（土）9:30～17:00

場所：NanbaPLACE（近鉄難波駅直結）大阪市中央区難波4-2-1 難波御堂筋ビルディング内

TEL 06-6633-8125 FAX 06-6644-6681

募集方法：日本放射線腫瘍学会ホームページで受け付け、応募が募集人員に達した時点で締め切る。
日本放射線腫瘍学会ホームページアドレス：<http://www.jastro.jp/>

募集開始：2007年12月20日（水）正午から

募集人数：350名

参加費：5,000円

はじめに

がん医療の中で放射線治療は根治から症状緩和まで多くの患者にとって重要な役割を担っている。放射線治療を受ける患者が増加する中で、「放射線」に対する根強い誤解や知識不足による不安を抱いている患者も多い。このような不安を和らげるために、看護師が事前にわかりやすい言葉で生活に即した指導を行うことは有用である。これは患者のセルフケアを促進することにもつながる。また、放射線治療を受ける患者は他のがん治療と同様に種々の有害事象を経験する。しかし、有害事象の多くは適切なアセスメントと効果的なケアの提供で症状を予防、もしくは低減させることが可能となる。一方、放射線治療には放射線治療医や診療放射線技師など多くの医療者が関わることも特徴のひとつである。医療者間の患者を者中心としたコミュニケーションを図るために、看護師の果たす役割は大きい。

これらのことを看護師が実行するためには知識が必要であるが、その知識は専門的で広範囲に及び、臨床では習得する機会が少ない現状である。そこで、患者が安心して適切な放射線治療を受けられるように、看護師への放射線治療の知識の普及を目的として本セミナーを継続して開催している。

第4回セミナー開催にあたって

第1回及び第2回はほとんどの患者が経験する「皮膚炎」を、第3回は参加者アンケートで要望の高かった「口腔・咽頭粘膜炎」をテーマとして開催し、いずれも参加者から高い評価を頂いた。今回の「骨転移」についても参加者アンケートの上位項目からテーマを決定した。

がんの骨転移に対する放射線治療は、保存的で非侵襲的であり疼痛緩和や麻痺予防に大変有効である。また、患者は痛みや可動制限、スピリチュアルペインを経験し、心理・社会的な問題を抱えていることも多い。このような患者に対して看護が果たす役割は大きい。本セミナーでは、放射線治療を受ける患者への適切なアセスメントならびに効果的な看護実践のために必要ながんの骨転移に対する放射線治療についての知識と情報を提供する。

セミナーの目的

がん放射線治療に関する看護の質向上を図るために、適切なアセスメントならびに効果的な看護実践に必要な知識を提供する。

第4回セミナーの到達目標

- 1) 放射線治療の特徴、治療状況、作用・有害事象出現のメカニズムを含む基礎知識を理解する。
- 2) 放射線治療を受けるがんの骨転移患者の抱える身体・心理・社会・スピリチュアルの問題について理解する。
- 3) 放射線治療の基礎知識およびがんの骨転移患者の抱える問題について理解することにより、適切な患者アセスメントならびに効果的な看護実践を結び付けて考えることが出来る。

セミナーの構成

- 1) 放射線治療に関する基礎知識、効果と有害事象のメカニズムについて概説し、最後のセッションは参加者に提示してもらった症例や質問を講師や他の参加者を含めてディスカッションする。
- 2) 「放射線治療を受けるがんの骨転移患者」に関する対応に苦慮した症例と質問等についてアンケート用紙を当日会場にて配布し、記入後に回収する。

カリキュラム (内容は若干の変更があるかもしれません)

時間	内容	講師	備考
～9:30	Information	(総合司会；午前) 早川 和重 北里大学病院放射線科教授 (総合司会；午前) 末国 千絵 国立がんセンター中央病院看護師	
9:30～9:35	開会の辞	土器屋 卓志 埼玉医科大学放射線腫瘍科教授	5分
9:35～10:20	1. すぐに役立つ放射線治療の原理 放射線治療ががんに効く理由、放射線治療の有害事象について骨転移に注目し、分子から人体レベルで解説する。	長谷川 正俊 奈良医科大学放射線腫瘍学教授	45分
10:20～10:30	休憩		10分
10:30～11:15	2. 骨転移の病態生理 骨転移出現のメカニズム、臨床的特徴などの基礎的知識を概説し治療方針の立て方など、Evidence に基づいて説明する。	小泉 満 癌研有明病院核医学部副部長	45分
11:15～11:25	休憩		
11:25～12:10	3. 骨転移の放射線治療 放射線治療と照射方法について最新の知見を含め、骨転移への照射にポイントを置いて概説する。	井上 武宏 大阪大学放射線治療学教授	45分
12:15～12:50	ランチョンセミナー 放射線治療計画装置の原理と役割	佐藤 清香 医学物理士 CMS ジャパン社	
		(総合司会；午後) 北原 規 昭和大学藤が丘病院 放射線科助教授 (総合司会；午後) 阿部 恵江 がん看護専門看護師 北里大学病院看護主任	
13:10～14:10	4. 骨転移患者の心理・社会・スピリチュアルの問題 骨転移による難治性疼痛を持つ患者の心理・社会的状態、疾患または患部の安静のための不動からの日常生活の拡大、病状進行によるスピリチュアルペインなど、患者の持つ問題について解説する。	田村恵子 がん看護専門看護師 淀川キリスト教病院ホスピス主任看護課長	60分
14:10～14:20	休憩		10分
14:20～15:20	5. 放射線治療を受ける骨転移患者の看護ケア 骨転移に対して放射線治療を受ける患者のアセスメントを行い、看護計画を立案し、効果的・効率的な看護ケアを実践するためのポイントについて具体的に提示する。	藤本 美生 がん看護専門看護師 兵庫県立粒子線医療センター看護師	60分
15:20～15:30	休憩		10分
15:30～16:50	ディスカッション・質疑応答 放射線治療患者の看護問題とその解決へのアプローチについて、参加者から回収した症例と質問を中心に講師とフロアとでディスカッションする。	(司会) 角 美奈子 国立がんセンター中央病院放射線治療部医長 (司会) 萬 篤憲 (独) 東京医療センター放射線科医長 (司会) 立石 久留美 (独) 東京医療センター 看護師長	80分
	閉会の辞	濱口 恵子 がん看護専門看護師 癌研有明病院副看護部長 日本がん看護学会 理事	